

# ○ 産地生産基盤パワーアップ事業のうち「施設園芸エネルギー転換枠」の拡充について

- 施設園芸等で使用されるA重油等の価格が高騰している状況を踏まえ、大きく価格が変動する燃油への依存度を下げ、経営の安定化を図るため、令和3年度補正予算において、産地生産基盤パワーアップ事業に新たに「施設園芸エネルギー転換枠」を設け、省エネ機器等の導入を支援。
- 原油価格高騰の長期化が懸念される中、**農業者負担を減らしつつ**、施設園芸のエネルギー転換を進めるため、**臨時的に以下の拡充**を行う。

## < 拡充の内容 >

### 拡充事項①：予算枠の倍増（10億円→20億円）

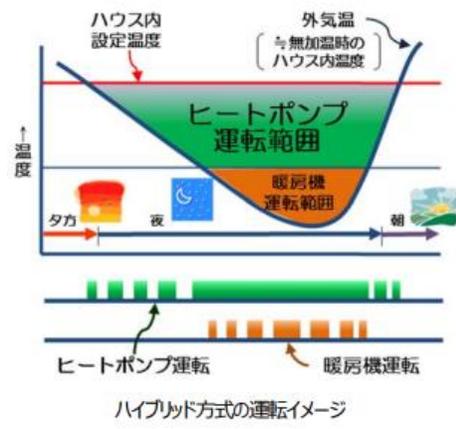
燃油価格が高止まりする状況に対応し、ヒートポンプ等の省エネ機器・設備の導入による燃油使用量を削減する取組に対するニーズの増加に対応し、施設園芸エネルギー転換枠を10億円から**20億円に拡充**。

### 拡充事項②：補助対象経費の拡充

産地生産基盤パワーアップ事業の生産支援事業（基金事業）の農業機器等の導入支援の一環として、**設置費**は支援対象外としていたが、燃油価格高騰の状況を踏まえ、農業者の負担軽減を図るべく、**補助対象に追加**。

## < 省エネ機器等の活用イメージ >

### ① ヒートポンプと燃油暖房機を併用するハイブリッド方式で省エネ化を図る



エネルギー効率の良いヒートポンプを優先して運転し、室温維持が困難となる低温時に燃油暖房機と併用運転する方法。

ハイブリッド方式により、燃油使用量を削減できるほか、ヒートポンプの導入規模を抑制できるため、導入コストや電力契約の基本料金を軽減できるなどのメリットがある。

### ② 省エネ機器の導入と合わせて、保温性や温度管理の技術向上を図る

内張カーテンの展張・多層化や、保温性の高い被覆資材の利用等により温室内の保温性向上を図るほか、循環扇の利用による温室内の温度ムラの改善、多段式サーモ装置の利用による温度調整により、省エネ化を図ることが期待できる。



## < 事業の流れ >



[お問い合わせ先] 農産局園芸作物課 (03-3593-6496)